

第50回区民車座集会（幸区） 摘録

- 1 開催日時 令和3年3月21日（日） 午前10時～午後12時
- 2 場 所 川崎市立古川小学校
- 3 参加者 26名

<開会>

司会：それでは定刻となりましたので、ただいまから「第50回車座集会」を始めます。

本日の車座集会は、「子どもたちの「あったらいいな・出来たらいいな」の実現に向けて～自由にボール遊びができる場所がほしい～」をテーマに、子どもたちの想いを実現するために、大人と子どもが話し合うことを目的に、市長と参加者の皆さんで意見交換を行っていただきます。

本日は、区内の古川小学校、幸高等学校から児童・生徒の皆さんに御参加いただいておりますので、ここでご紹介をさせていただきます。

初めに古川小学校の児童の方12名をご紹介します。

まず6年生からのご紹介です。浅見さん、黒木さん、石塚さん、川村さん、伊東さん、元田さん、秋葉さん、宮崎さん、豊田さん、早川さん。

続いて5年生です。勢一さん、栗山さん。

続きまして、幸高等学校2年生の生徒の方2名をご紹介します。野崎さん、岸本さん。

また本日は、地域で活動される12名の大人の方にも御参加をいただいております。

幸区PTA協議会副会長 館さん、株式会社北野書店代表取締役、北野さん、幸区子ども会連合会副会長 神谷さん、古川町内会会長 加藤さん、古川小学校施設開放委員長 柳澤さん、古川小学校PTA会長 中村さん、古川小学校PTA副会長 中小路さん、古川小学校PTA 舟生さん、幸区盛り上げ隊代表 倉林さん、沼ノ上公園管理協議会 渡辺さん、幸区ソーシャルデザインセンターコーディネーター 岩川さん、古川小学校 丸尾校長先生。

続いて、行政からの出席者を紹介いたします。

福田紀彦川崎市長、関敏秀幸区長です。

それでは、初めに福田市長から御挨拶申し上げます。

<市長挨拶>

市長：皆さん、おはようございます。今日は車座集会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

今日で、車座集会もちょうど50回目という節目を迎えました。この古川小学校の地域の皆さんとお話したのが、令和元年11月、約1年半ぐらい前のことで、もうそんなに経っちゃったんだなと思います。この間、地域の皆さん、今日おそろいのメンバーをはじめ、こんなに多くの方たちが携わって、子供たちのボール遊びがしたいという思いをどうしたら実現させてあげられるかと、すごい熱い思いでご参加いただいたことに、改めて心から感謝申し上げます。

そして、小学生の皆さんも、卒業式を終えられたばかりということで、卒業された皆さん、本当におめでとうございます。

そして、今日は卒業されたにもかかわらず、次の小学生のために引き続いて力を貸してくれるということで、心からうれしく思っています。また、新6年生という最上級生になったということで、小

学校の在校生のある意味代表の立場として参加していただいている皆さんとも、ぜひ今日は忌憚のないお話ができればと思います。

そして、何とかボール遊びができる環境というものを、みんなの協力で少しでも前に進めるような意見交換ができればと思いますので、よろしく願いいたします。

<区からの経緯説明>

司会：ここからは「自由にボール遊びができる場所がほしい」のテーマに入らせていただきます。

このテーマは、昨年度の車座集会からの経過がありますので、順を追ってご説明をさせていただきます。また、地域の大人の方々がこのテーマについて、これまで意見交換を行ってきていますので、その課程についても説明をさせていただきます。

幸区：最初のスタートは一昨年前が始まりでした。令和元年の11月に幸区長が古川小学校に伺って、古川小学校の児童の皆さんに、あったらいいな、こんなことができたらいいなというお話を聞きました。そのときに、あったらいいな、こんなことができたらいいなという意見のベスト4のうち、やっぱり多かったのが、ボール遊びが自由にできる場所がほしいという意見でした。

その後、市長と区内の中学校、高校の生徒さんなどで車座集会を開きました。実は、今日来てくれている幸高校の野崎さんも、このときも参加していただきました。このときのテーマは、「幸区のミライを語り合おう～住み続けたいまち・さいわい～」で、生徒さんたちがグループをつくって話し合いをしましたけれども、ここでもやはり自分たちの暮らすまちにあったらいいものとして、ボール遊びができる公園がほしい、それから学校の校庭の開放、という意見が出ました。

また、これらが実現していない理由として、ボールが使える公園は危ないと思われるのではないかと、ボール遊びについての理解がされていないのではないかとというような意見がありました。

そして、この車座集会が終わった後、古川小学校の皆さんや、多くの子供たちから寄せられた意見について、どうやって実現したらいいか、地域の大人の皆さんが集まって真剣に考えました。

まず初めに、このときの車座集会に参加していた大人たちが集まって、話し合いをしました。このときには、子供がよくボール遊びをする場所はどこだろうとか、公園や神社、それから学校の校庭、家の庭、いろんなところがあるね。やっぱり一番多いのは公園かな、そのような意見が出ました。

また、会議の中で出た意見としては、最近子供の体力が低下しているのも、大人としてはどんどん外で遊んでほしいという意見や、最近はボール遊びじゃなくてテレビゲームをする子供が多いという意見。周りに気をかけながら遊んでくれる子供が増えたらいいなという意見。そして、子供が公園でボール遊びしていて困っていることは何だろうか。PTAの人や公園の管理をしている人にも聞いてみよう。子供はどのようなボール遊びしているのだろうか。公園に実際に行って調べてみよう、このようないろんな意見が出ました。

そこで、まずは子供たちにアンケートを取って、いろいろと聞いてみることにしました。まず、放課後によくする遊びベスト3のうち、テレビゲームもとても多かったのですが、やはりボール遊び、それから鬼ごっこもとても多いということが分かりました。

また、よくするボール遊びとしては、サッカー、ドッジボール、キャッチボール、この辺が多いということがよく分かりました。そして、よくボール遊びをする場所はどこだろうということ調べると、公園ももちろん多く、その次に多いのが学校の校庭だということが分かりました。

その後、大人たちが新たにPTAの方や地域団体の方、それから学校の施設開放委員の方とかと会合して、会議を開催し、ボール遊びをする場所の基本はやっぱり公園だよ。ただし、公園にはいろんな制約がある。ボール遊びもいろんな種類があるけれども、全て公園でできるわけじゃないよね。

一方で、学校の校庭は全力でボール遊びができるのがいいところだ。それぞれに特色や特性があるよねということを考えました。

そして、子供たちには、地域に幾つかある公園や学校など、ボール遊びができる場所を選べるようにしてあげたい。そこで、子供たちがボール遊びをできる場所のうち、学校の校庭と公園に分けて議論しようということになりました。

さらに大人たちの調査は続きます。区役所の職員が実際に公園に行って、子供たちの話を聞いたり、公園の看板やルールについても調べてみました。

また、公園を管理している方や校長先生も新たに加えて、さらに話し合いを深めました。そして、その話し合いを行った結果、この話し合いの内容や議論について、子供たちにありのままを伝えて、子供たちの意見を聞いて、さらに議論を深めようということになりました。

<本日の進め方の説明>

司会：1年半前にあったらいいな、できたらいいな、このアンケートに答えていただきまして、その後、地域のいろいろな立場の大人の方が集まって、自由にボール遊びができる場所がほしいという、この実現に向けて3回にわたって真剣に意見交換が行われたことを、皆様にまずご紹介したところです。

大人の方々、校庭と公園ということで意見交換を行ってきているということでご紹介させていただきましたので、本日もこの車座集会、校庭と公園についてということで、分けて意見交換を行っていききたいと思います。

こちら、まず校庭から意見交換ついて、大人の方々の検討経過、こちらについて事務局から説明をさせていただきます。

<区からの説明②>

幸区：学校の校庭のいいところは、校庭というのは基本的に小学生しか使わないので、小さな子供とか近所の人を気にしないで、思いっきりボール遊びができる場所です。また、今は工事中なので狭くなっていますけれども、広いスペースでのびのびと遊べるとか、それからバスケットのゴールやサッカーのゴールが使えるというのもいいところだと思います。

しかし、学校の校庭で遊ぶ際に不便なところもあるようで、小学生の皆さんに取ったアンケートの中では、子供の不満として次のようなことが挙げられています。家に帰ってもう一回来るのが大変。自転車で来れない。遊具が少ない、終わる時間が早い、食べ物が持ち込めない、こんなところが不満として挙がっています。

また、大人にとっても放課後に子供が校庭を使うというときに、幾つか問題があるという話が出ました。大人の事情と書いてありますけれども、例えば、一回家に帰らなきゃいけないという不満がありましたけれども、実は高学年の子が6時間まで授業がある場合は、授業で校庭を使っていますので、授業の終わりが早い低学年の子は、どうしても一回家に帰らなくてはなりません。それから、けがをする危険があるので、誰かが見守っていなければいけないとか。でも、学校の先生がずっと見ているのは、これは先生の負担が大き過ぎるとか。

あと、食べ物が食べられないという不満がありましたけど、食べられるようにすると、やっぱり散らかってしまって片づけが大変になったり、それから、ちょっと難しい話なんですけど、学校の保険は一回家に帰ると効かなくなってしまって、自転車で来ると交通事故が心配だなというようなお話もありました。

では、実際に校庭開放の利用状況はどうだったのでしょうか。実は、昔は古川小学校でも放課後に

校庭開放されていましたが、そのときもあまり利用されていなかったという話を聞いています。また、区内のほかの学校でも同じような結果でした。それから、皆さんに行ったアンケートの中でも、放課後に校庭開放が行われたら利用したいですかという質問に対して、利用したいと答えてくれたのは3人に1人ぐらいでした。

では、どうすれば校庭開放がもっと利用されるようになるのかと大人の人たちが考えました。もちろん、先ほどの不満とか不便な点について、ちょっとでもよくしていきたいなということの検討もあります。その上で、毎日は無理だけれども、時期を限定して、地域で見守るようなことはできないのかなとか、連合運動会とかそういうイベントの前に練習をしたいという子がいるかもしれないから、そういう子たち向けに開放したらどうかとか。

それから、学校のボールとかフリスビーとか、そういうものを貸し出したら、子供が喜んでもっと来てくれるようになるのかなとか。さらに、学校のほうはスポーツ競技、リレーとか、そういったのと地域のお祭りだとか、そういったものと連携して開放すると。そうすると、もっと子供たちが来てくれるんじゃないだろうかとか。この辺で言うと、塚銀フェスティバルと連携して何かイベントができるのではないかと、そんなことを考えました。そして、どうすればみんながもっと校庭を利用したくなるのかなということを今回、聞いてみたいと思いました。

司会：今、校庭についての地域の大人の方々の検討結果を皆様に聞いていただきました。

<幸高校生徒からの提案>

司会：続きまして、幸高等学校の生徒さんから、校庭の使い方についての提案をしていただきたいと思います。幸高等学校の2年生は、今年度、幸区の課題について、総合的な探求の時間の中で、探究活動を行っていただきました。野崎さんと岸本さんのグループは、校庭開放について探究活動を行っていただきましたので、ここで発表していただきたいと思います。

野崎さん：幸高校では、幸探求という地域のことや学校のことなどをテーマに解決方法を自主的に探究する活動を行います。私たちは、この幸探求の活動において、区役所の方から幾つものテーマをいただき、1年間探究してきました。

岸本さん：まず、皆さんは校庭開放を行っているということを知っていますか。また、今の小学生がどのくらい放課後に校庭を利用して遊んでいるか知っていますか。このように聞かれたときに、すぐに答えることができませんよね。私たちも今までは答えることができませんでした。なので、この課題解決に少しでも近づくため、そして今の現状を知るために、下平間小学校の3年生と5年生を対象にアンケートを実施しました。

1つ目、放課後に校庭を使ったことがあるか。2つ目、なぜ校庭を利用しないのか。3つ目、高校生と一緒に遊びたいと思っているかの内容のアンケートに答えてもらいました。

その結果、まず3年生の場合、校庭を使ったことがあると答えてくれたのが約3割、ないと答えてくれたのが約7割と、ほとんどの子が校庭を使っていないということが分かりました。そして、その理由としては、家でゲームをした方がいい、友達も使わないから、行くのが面倒くさい、校庭に行きづらいなどが挙げられました。

次に、5年生の場合です。校庭を利用したことがあると答えてくれた子が約1割、ないと答えてくれた子が約9割と、こちらもほとんどの子が利用していないということが分かりました。その理由としては、友達も使わないから、校庭で遊ぶ気にならない、携帯を持ち込めないなどが挙げられました。

こういった理由を踏まえ、少しでも小学生に校庭開放を楽しんでもらえるように、2つの案を考えました。

まず1つ目は、季節に合ったイベントを実施するという事です。例えば、春だったら花見、夏は屋台を出したり、流しそうめんを一緒に行ったり、秋には月見、ハロウィンなどの仮装パーティーや、冬には餅つきや星を見る天体観測など。

もう1つが、プチ運動会の案になります。リレーや、鬼ごっこ、サッカーなどを行うイベントとかを開いて、その運営で地域との交流を深められると考えました。

そして、このイベントやプチ運動会を実現するために、企画運営を行う高校生のボランティアグループの作成を提案します。

野崎さん：このボランティアグループを作成するにあたっての高校生側のメリットとしては、まず、保育士や小学校の先生になりたい方、小さい子と遊ぶのが好きな方は、日頃から小さい子と関わる時間が増え、将来に向けてとても大きな活動になると考えました。ほかにも大学での自己PRに活用したい方や、新しいことに挑戦したい方にはプラスになる活動になるのではと考えました。

また、小学生側のメリットとしては、今までにない体験ができ、高校生と関わることで日々のコミュニケーション能力が向上するのではないかと考え、少人数ではできなかったような遊びも高校生が加わることによってできるようになるのではないかと考えました。

小学生に取ったアンケートの中でも、高校生と一緒に遊びたいと思っている子が3年生と5年生、2学年合わせて約7割いて、ドッジボールや鬼ごっこ、ドロ刑といった一般的な遊びから各学校独自の遊びまで一緒に遊びたいと答えてくれました。

今はまだこのボランティアグループを実現させることはできていませんが、将来的には実現していきたいと考えています。

<市長との意見交換①>

司会：ありがとうございました。

それでは、区役所からご説明させていただきました大人の方々の検討経過、また今発表いただきました幸高等学校さんの校庭開放の提案、こちらを踏まえまして、校庭でのボール遊びについて、市長との意見交換に移らせていただきます。

市長：どうもありがとうございました。今、高校生からのプレゼンが終わった瞬間に自然にみんなから拍手が湧いたというのが、とてもうれしかったです。本当にお2人の高校生の皆さん、本当にありがとうございました。

まず、子供たちのボール遊びをしたいという気持ちにどうやって答えていくかということで、何回も大人たちが集まって議論してくれたということに、本当にありがとうございますと申し上げたいと思います。

実は、これは幸区あるいは古川小学校だけの話ではなくて、川崎市内全域の話です。市長への手紙という制度があって、こういうことを改善してほしいという手紙がいっぱい来るんですけども、その中に、子供さんたちからの手紙というのも含まれているんです。その中にボール遊びしたいんだけどできないのをどうにかしてくれと。公園をもっと造ってくれという話というのが、いっぱい書かれています。「バスケットボールができない、バスケットコートを作してほしい」。あるいは、「僕はキャッチボールしたいんですけど、大きな道路を越えないと、ボール使っていない公園には行けず、危

ないということで親から反対されています。もっと道路のこっち側に大きな公園を作ってください、という要望というのがたくさんあります。

だけど、現実問題、どこにその公園を整備する土地があるかといったら、なかなか難しい話。じゃあ、今あるところをうまく使っていく。みんながボール遊びをしたい。だけど、どの公園もどの場所も安全で、みんなにとって安心の場所でなければならないということは当然ですね。その難しい答えを、どうやったら実現させることができるかという部分、ここは100%の正解はないかもしれないけれども、だけどみんながちょっとずつ知恵を出して、ちょっとずつ考え方を変えることによって、もしかしたらこういう可能性があるかもしれないということを、大人たちからの提案、あるいは高校生からの提案として、すばらしいご提案をいただいたと思います。

みんなから、生徒さん、子供たちからの意見というのを、それぞれ聞いていきたいと思いますが、その前に、今、高校生からすてきな提案をしていただきましたけれど、そのことについて、大人たちはどういうふうに今思ったかなというのを、館さんと、PTA会長の中村さんと、それから町内会長さんにも伺ってきたいと思います。

館さん：一保護者として、先ほどの意見は非常に参考になるところ多かったかなと思っています。特に、最後にあったボランティアのグループを立ち上げて活動していきたいということですね。実は大人の会議の中では一度も出なかった視点で、これは非常に新しい意見だと思って聞いていました。

ボランティアという言葉は、どうしても何かしてあげなくてはという思いが非常に強い方々が集まると思うんですけども、そこに大学生とか高校生とか、むしろ子供たちと一緒に活動したいよという方に声をかけるというのが、ボランティアというよりも、単に奉仕するというだけではなくて、一緒に楽しもうという、そういう思いを持った人が集まるということは、非常に新しい視点で面白いと思いました。

市長：ありがとうございます。中村会長、よろしいですか。

中村さん：古川小PTA会長の中村です。大人の意見というか、大人の考えとまた違った部分を見ていたところに関しては、本当に目からうろこだなと感じました。やはり僕も子供たちと遊んだりして見ていると、高校生とか中学生や小学生と交わっている姿を見たりする中で、高校生とか小・中学生が自分が小学校のときに上の子たちにしてもらったから、自分も自然とできるみたいな、そういうルートができてくればいいのかと。ボランティアというと何か構えちゃったりとか、大人だったら監督したり、ルールを先に決めちゃうという部分があるんですけども、それを逆にフォローアップできればいいのかと、話を伺って思ったところです。

市長：ありがとうございます。それでは、加藤会長、よろしいですか。

加藤さん：私はドッジボールの指導もやっています、ドッジボールを経験して卒業した高校生が、社会人になっても、自分が今まで経験してきたことが忘れられないということで、子供たちがやっているドッジボールチームはどうなっているのかと見に来たりして、その中で、練習なんかもして一緒に遊んだり、ドッジボールの練習相手になってくれます。中学生はクラブ活動が大変なので、高校生や社会人になってから来る人が結構います。

そういうことを考えると、このアンケートにもありましたけれども、高校生と一緒に遊びたいと思っているというのが69%、これは大人だと、ふだん勤めたり、いろいろ大変ですし、保護者だと、

小学生も結構遠慮がちなところがあると思います。やはり今、子供たちが一番嫌なのが、保護者に管理されるのが嫌なのかなと私個人的には思っているんですね。だから、そういうのを考えれば、高校生の生徒たちがボランティアとしてやってくれば、逆に本当にいい、1つの提案だなと思います。

市長：ありがとうございます。加藤さんに伺いますけれども、アンケート結果に出ていると思うんですけど、子供たちのやってみたいスポーツで、ドッジボールがすごく多いですね。多分、加藤会長さんがこの地域でドッジボールを相当広めていただいているおかげで、こういう結果が出ているのではないかと思います。今言われたように、ドッジボールの世界だと、かなり高校生や大人になってからも、また地域のところに戻ってきて指導に当たる。これがすごく自然にできているということなんです。これ最初に申し上げたように、必ずしも古川小学校のように、ドッジボールだとかそういう縦の関係、ななめの関係ができ上がっているところって、ほかの市内の学校が全部がそうなっているかという、決してそうではないですね。そういった意味で、こういった高校生の、大人に今までなかったような知恵というものが出てきたということを受け入れるというような、それぞれのコメントだと思います。

神谷さん、こども会でずっと携わってきて、かなり年齢層が幅広いところとお付き合いいただいていると思うんですが、ご感想をいただけますか。

神谷さん：私もこども会でずっとやっているんですが、幸区の中だけで見ても、やっぱりこの地域と、また線路を越えた向こうの日吉地区という地域との温度差をすごく感じているんですね。それで、今の高校生の発表を聞いていて、大人たちがすごい頑張っても、なかなか子供たちの要望に追いついていないというのをすごく最近感じていたけれども、本当にこういう意見があれば、子供たちと一緒に、高校生と一緒に遊びたいと思っているところって、そういう考えもあるんだな。そうすると地域の中でも、幸高校さんとは遠いけれども、地域の中で活動していく若い人たちは確かにいるはずなんですね。そういうことで一緒に活動したら、今どんどん行き詰まっているこども会活動というのも少しずつでも、また盛り返すことができるかなと思います。

市長：素晴らしいコメントをありがとうございます。みんな、今日来ていただいている大人たちって、すごく真剣に向き合っている、ゆえに高校生の新しい提案というのが、ふっと目からうろこ的な、新しいイノベーションがまたできるような、そんな気がしています。逆に今回、高校生お2人にプレゼンしていただきましたけれども、高校生から見て、大人たちの提案、これまでの取組みみたいなところで、少し感想いただけたらと思います。

野崎さん：この間の車座集会に出させていただいて、その中で自分がボール遊びの意見とかも出させてもらったんですけど、今回さらに調べてみて、やっぱり広まっていないんだなというのをちゃんと実感して、大人たちの方が調べている、考えていることというのも、やっぱり私たちみたいな高校生でも同じような意見が出て、小学生に聞いて初めて分かるような意見も多かったのも、視点を変えて見ないといけないのって解決していかないんだなというのを、すごく実感しました。

岸本さん：私は前回の車座には出席していませんが、私たちが幸探求の中で話してきた中で、大人の人たちが小学生のために話している意見、それだけでは解決しないなということがあって、さらに踏み入った提案をさせてもらったという感じです。

市長：ありがとうございます。

それでは、6年生、5年生の皆さんに話を聞いていきたいと思うんですが、大人たちあるいは高校生からの提案、こういう分析しているんだけど、いろいろな大人の事情のようなものがありました。例えば、一度家に帰ると自転車って保険が効かなくなることもあってちょっと心配だなという声もあったりとか、遊びにけがはつきものだけど、けがをしたときに誰か見守ってくれる人がいないと困るよねとか、いろんな心配事というのが、「思いっきり遊ばせたい」という気持ちはあるけど、それがゆえにいろんなことを考えなくちゃいけないという大人たちの気持ちというのがあると思うんですが。そういう中でみんな意見というのはどういうふうに思っただろうかというのを聞かせていただきたいと思います。

それでは、黒木さん、大人たちの提案あるいは高校生の提案はどうだったかな。全体的なことでも結構ですでお話いただけますか。

黒木さん：高校生の提案がいいと思いました。ボランティアをつくるというところがいい。ほかの大人たちも思わなかった点で。

市長：黒木さんは高校生と遊びたいですか。

黒木さん：どちらかという、遊びたいですね。

市長：どちらかという、みんなの中でも、今日は12人ですか。12人集まっている中で、高校生と遊んでみたいという人はどのぐらいいますか。

10人ですか。かなりいるということが分かりました。これすごく、いろんな意見があつていいと思います。そもそも校庭で遊びたくないという人も第1回目の車座ではありました。何でって言ったら、そもそもボール遊びしないからと言って、それはそうだねと。そもそも、外遊びもしたくないしボール遊びもしたくないという子たちもたくさんいるので、それはそれでいいと思いますね。ほかにやりたいことがあるなら。

でも、12人いる中で10人の子供たちが高校生と遊んでみたいというのは、逆に高校生から見ると、なるほどというようなアンケート結果でも出ましたけれど、リアルにそういうことを感じていらっしやることは、何となくすごく前回より新鮮に感じたところかと思います。

浅見さん：あまり外遊びをすることはないんですけど、高校生と遊ぶという、そういう企画とかがあれば行ってみたいなと思いました。

市長：そういう意味では、大人たちの提案にちょっと近いですね。毎日遊ぶわけではないけれども、高校生がそういうふうに来てくれたら、ちょっと行ってみたいと考えますか。

川村さん：行ってみたいと思うんですけど、家の事情とかがあから、行きたいとは、まだ言えません。

市長：ありがとうございます。高校生とボール遊びというのを日常的にやってみたい方、ここについては担保されましたので、元の質問に戻ると、校庭で遊べたらいいなと思いますか。逆に、特に公園では遊びたいとか、あるいは公園でも遊べたらいいけど、校庭で遊びたいけど、例えば、自転車で行けないとか、携帯が持ち込めないとか、いろんな制約があるから使いたくないということなのか、そもそも校庭では特に遊びたくないと思っているのか、どちらでしょうか。

川村さん：今、公園とか校庭とかではあまり遊ばないから、そういうのはちょっとよく分からない。

市長：なるほど、分かりました。伊東さんに同じ質問をします。校庭で遊びたいという気持ちありますか。あるいは遊びたいんだけど、こういう制約があるからとか、あるいは高校生の提案のようにイベントには参加したいとか、どういう意見をお持ちですか。

伊東さん：イベントには参加したいですけど、やっぱりコロナの影響で、あまり周りの人とはちょっと関わりたくないです。

市長：なるほど。今、僕もしゃべっている中でコロナの影響のことを忘れていたような気がしたんだけど、いい指摘です。元田さん、いいですか。同じ質問になるんですけども。

元田さん：私は大人の人がいるところの公園で遊んでいるときに、けがをしたときに助けてもらったりしたので、校庭とかだとちょっと。公園だと、けがしたときとかに、周りの人が携帯を持っていたら連絡してくれたり、何かちょっと見てくれていたら安心だなと思いました。

市長：なるほど。これはすごい大切な視点ですよ。携帯が持ち込めないから連絡ができないという、それは安全面からすると、たしかにそうですね。ごめんなさい、今まで私気づいていませんでした。いい視点ですね。

黒木さん：古川小が新校舎を作るため、校庭がすごく小さくて、その工事現場にボールが行ったらどうするとかを考えて、遊べるところが少なくて、行けなかった時期もありました。あと、遊ぶ場所が小さかった。

市長 校庭の使い方。大人たちあるいは高校生たちの提案を受けてどう思いましたか。

宮崎さん：もともと高校生の方と一緒に遊びたいというのがあって、僕はこの日のために周りの人から聞いたりもしたんですけど、周りの人もみんな高校生との遊べるイベントとかがあったら行きたい言っていて、でも、僕たちの現状としては、学校の校庭を使えるということがあまり知らない人が多かったりすると、工事とか、あと遊具が使えないとか駄目というルールが多過ぎて、じゃあ公園のほうがルールがまだ緩いから、校庭はやめようかなというのがあります。

市長：なるほど。そもそも校庭を使えるということは知られていない、だから使わないし、ルールも厳しくないから、公園のほうがいいかなと。校庭と公園というもので分けて議論しましたがけれども、実は子供たちからすれば、ある意味、一緒の空間としては、そこにどういう制約、ルールあるかによって選択しているという実態があるんですね。

石塚さん：校庭だとさっき元田さんが言ったみたいに、けがをしたときのこともあるし、何回か行ったことがあるんですけど、そのときもそんなに人はいなかったし、校庭はあまり行きたくない。

市長：なるほど、ありがとうございます。

これまでの議論を区長はずっと大人の会に参加してくれていましたけど、区長からの今の子供さんたちからの声を受けて、どう思ったかコメントしてもらっていいですか。

区長：私はずっと大人の意見を聞いていて、そうかなと思っていましたけれども、子供たちの生の意見を聞くと、かなり違うなというのが正直思ったところです。

多分、大人の皆さんたちも、最後の議論のときに子供たちに聞いてみたらどうなのかなという話があったかと思うんですが、実際、利用者というか、ニーズがどういうふうだったのかということがよく分かりました。少し考え直さなきゃいけないことがあるし、高校生の意見を聞いて、かなり手厳しいなというのもあったんですけども、区としてもいろいろ考えなきゃいけないこともあるかなと思っています。

市長：ありがとうございます。今の子供たちのコメントを聞いて、大人側からの視点で何かコメントしようかなという方はいらっしゃいますか。

北野さん：先ほどの高校生の提案を受けて、まさに議論していたことが本当に覆る意見だなと思いました。私も校庭というのは小学生しか使えないというイメージがあったんですが、いろんなところで地域の方が活用していくということ、ある意味、公園と校庭と、いろんな居場所という意味で、共有する居場所、選択肢を増やすという意味ではすごくいいなとも感じました。

市長：ありがとうございます。これ、一回帰って携帯電話を持つてくるとか、あるいは自転車の運転は、そもそもちょっと危ないなという思いがあると思うというのも意見としてありましたけど、この辺については、やっぱり難しいですかね。校長先生あるいはPTAの方とか。舟生さんから見て、PTAとしてどういうふうに感じておられますか。

舟生さん：PTAの保護者からの意見としては、古川小学校近隣は歩道と車道が分かれていないので、自転車は確かにすごい危ない地域になっていまして、親としては心配という部分があります。携帯電話を学校に持ち込めたら、何かあったときにすぐ親に連絡できるので、いいと思いますけれども、自転車に関しては、ちょっと危ないかなと思います。

市長：ありがとうございます。携帯電話のルールについては、今、校長先生に聞くのは、なかなか酷な話だと思うので、学校の全体の話ということになるので、高校生がもし来てくれていたら携帯を持っているかもしれないという、そういう安心感がありますね。見守りの意味でも、携帯は持っていたほうがいいのかというようなお話。自転車については、まだまだいろんなご意見があるかなというふうに思います。

今日は、ソーシャルデザインセンターの岩川さんに来ていただいておりますけど、今までの議論を聞いていて、どういうふうにごらんになっていますか。

岩川さん：高校生のプレゼン発表を聞かせていただいて、野崎さんが視点を変えてみるとおっしゃったことが、本当にまさにそうだなと、大人もそうだなと、すごく感じたのと、あと子供さんからさっき意見があったように、認知が全体的にされてないのかなと感じ取れましたので、使いたくないというよりは、使える方法を知らせてあげたほうが活用方法も見い出せるのかなと思いました。

あと私は、行政の皆さんと市民の皆さんとの間の立場があって仕事をさせていただいているので、ぜひ、こども会議だったりとか、公園の管理者の皆さんと、会議を開催してみたりとか、ここじゃなく

てほかの地域で実際そういう校庭を子供たちが使えるような環境を整備されているところもあるかもしれないので、そういうところの勉強会なども一回できたらいいのかなと、未来を想像しました。

市長：今、校庭の使い方について、いろいろ話をしてきたんですけど、まだまだ課題が見えてきたというか、子供たちからの提起によって、こういう課題もあったんだねというものが見えてきたように思います。

ただ、確実に大人たちの提案という意味では、まずはいろんなハードルがあるけど、1個やってみませんかという提案。あるいは高校生から、例えば、大人と高校生の提案という形で出てきましたけど、高校生を交えて新たな提案ということは、また見えてきますよね。そういった意味では、大人と高校生でどういうことができるか話し合うと、恐らくもう少し小学生の皆さんに近寄った形での答えというものが出てくるんじゃないかなと、私は今の現時点では思っています。

時間が迫ってきているので、最後にこのコーナーでは、秋葉さんが第1回目から参加していただいていますね。大人たちや高校生のこれまでの提案を聞いてみての、コメントしてもらっていいですか。

秋葉さん：私は、高校生と遊ぶのに気を遣うので、遊んでみたいとは思わなかったけれど、いろいろな人が考えてくれているから、遊んでみたいなと思いました。

市長：ありがとうございます。すごくいいコメントしていただいて。遊んでみたいなと思ってくれたということで、ありがとうございます。

校庭の使い方というのは、今までやっぱりいろんなルールがある、あるいはもう一つの課題として、大人たちにも、先ほど北野さんのコメントもありましたし、小学生のという意識が強過ぎて、あるいは子供たちにとっても、そもそも遊んじゃ駄目だよねという思いがある、あるいはルールが厳しいということで、なかなか控えているということが出てきたと思いますので、そのところを少しずつ、どうクリアできるのかというのを、もう少し深めていくことが大事だなと。そうするといい解決策が、今よりもう少し進めることができるというふうに思わせてもらいました。

<区からの説明③>

司会：続いて、公園でのボール遊びについて、地域の大人の方々の検討経過を説明をさせていただきます。

幸区：それでは、次は公園での遊び方についてということで、大人の方たちの話合いの結果をご報告いたします。

公園での遊びについて考えてみたということで、まずは古川地区の公園についてなんですけれども、実は古川小という地区は昔から町内会とかこども会を中心にして、ドッジボールとかのボール遊びが非常に盛んな地域だそうです。男の子でも女の子でもドッジボールなどのボール遊びをする子がとても多い地区だということでした。

大人たちの話の中で、この古川地区ってボール遊びができそうな公園としては、三角公園、恐竜公園、コーポ公園、この辺りの公園がボール遊びができそうな公園として挙げられていました。そこで大人たちは、この三つの公園について、公園の利用実態とか、ルール表示というものを調べてみようということになりました。

まずは、三角公園です。ここは正式には沼の上公園といいます。この公園は学校からすごく近いということもあって、みんなが集まりやすい公園になっています。行くといつも多くの子供たちが遊んでいます。ただ、ちょっと狭目なところになっているので、本格的なボール遊びというのはできないかなという公園になっています。

こちらが上から見た公園の図です。大体この奥側のほうで皆さんボール遊びをしていることが多いようです。真ん中のほうの遊具が多いところには、割とちっちゃい子たちが遊具遊びをしているというのが見られます。また、ここで遊んでいる子供たちからは、結構人が多いので、お互いにボールがぶつかったりして危ないとか、保護者の方からは、ボールが外に出やすいので子供が危険だとか、車にも迷惑がかかるというような声が聞こえました。それから、公園管理の方からは、すぐ近くに家があるので、近隣の人に結構迷惑がかかっているよとか、遊具が多くて結構低学年の子で遊具で遊んでいる子供が多いとか、そんな声が聞かれました。

次は、恐竜公園です。ここは正式にはこかげ公園といいます。この公園は高いフェンスと広いフィールドがあって、結構大人数のボール遊びにむいている公園かもしれません。ただし、遊具はちょっと少なめになっています。

こちらが上から公園を見た図です。この真ん中の広いエリアで多くの子供たちがボール遊びをしています。去年までは、この公園の独自のルールがありまして、曜日によってサッカーとか野球とか球技を分けていたんですけども、今現在はそのルールはなくなっています。今はそんなに混んでいないんですけど、やっぱり夏休みとか天気がいいときとか、人が多いときには、結構何グループも遊んでいまして、野球とかサッカーとかで複数のグループがぶつかることもあるそうです。

最後は、コーポ公園になります。これは正式には塚越公園といいます。この公園もある程度の広さと、それから高いネットもありますので、割とボール遊びがしやすい公園だというふうに聞いてます。ただ、ちょっと学校から遠かったりとか、周りが高い建物に囲まれているので、ちょっと暗いなどという声も聞かれます。

こちらが上から見た公園です。この広いエリアでボール遊びをしている子が結構多く見られます。あと、隣に保育園があるので、ここもボールが出ちゃって危ないなというような声も聞こえました。

ここで、小学生の皆さんがアンケートに答えてくれた、公園に行ってボール遊びをしていて困ることを見てみたいと思います。

皆さんの不満としては、ボールが道路に出て危ないとか、場所が狭い、それからサッカーゴールとか、バスケットゴールみたいな道具がない。あとは、大人に文句を言われる。それから、ボール遊びするときには遊具が邪魔になると、そんなような声が聞かれました。

では、実際に公園で遊んでいる子からはどんな声が挙がったのでしょうか。話を聞いた子供の中には、近所の塀にボールが入って怒られたことがあるという子もいました。それから、低学年の子の中には、高学年の子が遊んでいると使いづらいなんて声もありました。あとは、これは恐竜公園の子供ですけど、曜日ごとの球技が決まっていたのが、ないほうがよかったなという声もありました。

あとは、これはたしか三角公園のところですけど、少しはルールがあったほうが使いやすいのかなと、そんな声もありました。

ここで、子供以外の人で公園を使っている人、大人の人たちの声を聞いてみたいと思います。

小さい子供を連れてお母さんの声としては、たまにボールが飛んできて危ないことがあるという声がありました。

それから、保護者の方ですけども、ボールが外に飛び出して危なそうだという声もありました。これは三角公園ですね。あと、これも三角公園ですけども、ボールが近所の家の窓ガラスを割ってしまったことがあると、そんなお話も聞きました。

実は、公園に来るのは、小学生がボール遊びをするだけではなくて、小さい子供とか保護者の方とかお年寄りの方、保育園の方、いろんな人が関わっている場所だということが分かっていただけだと思います。

また、ボール遊びをすることで、子供自身が危険な目に遭うということもあるということも分かり

ました。

あと、そんな公園のボール遊びについてのルールはどうなっているのかということで、看板を見ていただきます。これは、よく公園にある看板なんですけれども、ここには、ボール遊びをするときは周りに気をつけながら遊びましょうというふうに、これだけ書いてあります。これは三角公園の看板です。

ただ、公園の看板というのは大体、周りに迷惑をかけるボール遊びはしないというふうにしか書いていないんですね。なので、何ができるかということがなかなか分かりづらいかもしれません。なので、大人の中には、公園でボール遊びは全部駄目と思っている人もいるし、子供の中にはこのぐらいならいいだろうということで、迷惑なボール遊びをしてしまう子もいます。

つまり、大人と子供の間で、あるいは子供同士の間の中でもどこまでやっていいのかなという認識にずれがあるんじゃないかなということが、大人たちの話合いの中で出た意見です。

このため、みんなで共通の認識を持つことが大事なんじゃないかなと、そんなことを大人たちは話し合いました。

そこで、大人たちからの意見なんですけれども、実際大人の方たちも、本当だったら子供たちがどんどん成長していくために、自分たちで考えて、自分たちで気をつけながら遊んでもらうのが一番いいなど、そんなふうに考えています。でも、公園でみんなで気持ちよく遊ぶためには、みんなでどういうふうなのがいいかと同じ認識を持つために話し合って、何か提示したほうがいいのかというふうにも思っています。

そこで、大人たちから聞きたいことです。大人たちは、公園で気持ちよくボール遊びするためには、どこまでが周りに迷惑をかけないボール遊びなのか、公園を利用するみんなで確認をしたほうがいいのかというふうに思っていますけれども、子供たちの意見が聞きたいです。

そこで、どのようにしたら公園でみんなが楽しくボール遊びができるか、これについて聞いてみたいと思います。

<市長との意見交換②>

司会：公園でのボール遊びについて、地域の大人の方々の検討結果、内容をご説明をさせていただきました。ただいまの説明を踏まえまして、市長との意見交換に移らせていただきたいと思います。

市長：前のページの大人の意見というところを出していただいて、ぜひ、子供たちの意見を聞いてみたいということがありました。実は、先ほどの休憩の間に、子供さんたちにもう一回話を聞きました。それは、私からも公園だとかボール遊びについての場所についてなんですけれども、やっぱり安全でなければならないということと、それからそこにいて安心だということ、そこにいて大丈夫なんだという安心感ということが必要だと思います。

そういう意味で、思いっきりボール遊びをすると、公園の中だと、先ほど出ていたように、小さい子供さんだったり、いろんな利用者の方、お年寄りの方もいらっしゃるということで、なかなか制約がある。そういうところで、校庭のほうでもう少し利用が拡大することができれば、ルールが変わると、そっちのほうに行くという話をしたら、皆さん、そういう話になりました。

例えば、自転車で行けるようになったら行くと思うというふうに聞いたら、行くと思うという人、手を挙げてもらっていいですか。12人のうち11人が、自転車利用が少し緩くなっただけで学校のほうに行くということです。先ほどのお話では、道路の形状だとか含めて、少し狭いから心配だよねというのが、実は子供たちからも声がありました。そういうことがもし緩くなるのであれば、校庭の方を利用すると。そうすると、多分、公園のほうに連動していく形になるので、校庭でボール遊びを

どんどん思いつ切りするようになって、公園でのボール利用がやや少なくなってくるという形になっていくかと思います。皆さん、今の僕の話聞いていて、大体合っていますか？休憩中に話したというのは、大体そういうことです。

そういうことを踏まえて、公園の話が気になっていて、話をさせていただきたいと思います。

公園のところでの使い方ということで、どうやったら楽しくボール遊びができるかなということ、渡辺さんは三角公園を管理運営していただいている立場で、本当にいろいろな形でご協力をいつもいただいていることに感謝を述べたいと思いますが、運営していく、管理していく上で、住民の声であったり子供さんたちの安全のことを考えたり、様々な悩みだとかがあると思うんですけど、その辺りの現場の声というか、率直なご意見をいただければと思います。

渡辺さん：公園とかを整備するときに考えることは、やはりこの地域は住宅密集地ということを見ると、やはりその地域の人のための憩いの場所という形で、どんな公園にするかを協議してつくっていただきたいと思います。

公園の中で、割と三角公園というのは薄暗くて、あまり人が来なかった場所なんですね。11年前に新しく公園を整備しまして、大きな木を切って遊具も全部新しくなって、きれいになってから人の出入りが多くなったというふうに私は思っているんですね。

その中で、やはり小さい子供さん、周りに保育園があつたりして、保育園の子供さんたちも午前中の早い時間に結構公園に来ていて遊んでいらっしゃるんですけども、学校が終わってから小学校の低学年から多分4年生ぐらいの方だと思うんですけども、結構、沼の上公園に集まってスマホをしたり、それこそドロボウをしたり。ドッジボールはあまり見かけないんですけども、鬼ごっこを結構やっている姿を見るんですね。それと、前にちょっとお話したんですけども、沼の上公園前にマンションがあつて、その子供がサッカーをやっているんですけど、サッカーの練習をしたいんですけど、どういう形でやったらいいんですかという相談を受けました。ただ、サッカーがどういう、何人からやるのか。一人がドリブルの練習をするのか、蹴ってゴールに打ちたいのか、それが分からなかったんで、基本的には朝のすいている時間帯ですとか、子供さんがサッカーをしているときに親御さんがついていただいて、ほかの方の迷惑にならないようにという形でやっていただくんだったら結構ですというお話をしました。

この地域でボール遊びができるのは、マンションができたときに成形された公園である、こかげ公園です。あそこは基本的にボール遊びができる場所なんですね。その地域でもし、それだけの広い空き地ができるとすると、今四丁目でマンションが開発されているんですけども、あそこにも恐らく公園用地として市のほうに提供されている土地があると思いますが、その中で地域の憩いの場所プラス、子供の運動場的なものを、道路公園センターと協議していただいて造れたら、よりいいのかなと思ったんですけど。

先ほど、高校生が小学生に手を差し伸べてくれているというのがすごくうれしかったのが、小学生が高校生と遊んでみたいというのが衝撃だったんですね。小学生のときに、団塊世代で子供だったせいもあるんですけども、高校生と遊びたいという感覚がなかったものですから、びっくりしました。

市長：ありがとうございます。実は私もなんです。私も高校生と遊んでみたい小学生がこれだけいるというのはちょっと衝撃な話だなと思って。だから私もですけども、こういうものだという思い込みを取り外さないといけないなというものを、ある意味、高校生が今回、入ったことによって気づかされたものというのがありますし、逆に子供さんたちのそういう提案が高校生とか大人の提案をどう思ったということ、まず第一歩として、大人だとか高校生とかでやってみると言ったら、みんなうなず

いているんですね。非常に大人たちも高校生の提案について、非常に肯定的な意見というか、休憩中のことですが、そういう意見を聞けました。ありがとうございます。

本当に、公園管理はいろいろな方からご相談を受ける。例えば、サッカーをしたい、ボール蹴りたいんだけど、ボール蹴りというのはどういう意味というのを深くやらないと、逆に非常に危ないからただのパスをするだけなのかという、随分と同じサッカーでも違ってる。ただ、この話って発表であったように、子供たちにとって非常に分かりにくいルール。危険なボール遊びというのはみんなをやめましょうと。どの程度が危険なのか、受け止め方がすごく幅広いというので、どう受け止めていいのか分かりづらいなという声があるんですね。皆さんからご意見を少しいただければと思いますけれども、栗山さん、公園のルール表示みたいなものを、どういうふうに理解していますか。

栗山さん：私はよく三角公園で鬼ごっこをするんですけど、鬼ごっこをするときに、やっぱり野球とかサッカーをやっている人がいて、ボールがブランコのほうに行くと、小さい子に当たっているボールがあったりして、もう少し広い公園があれば、そっちでボール遊びをしてほしいなと思います。

市長：ありがとうございます。中小路さん、コメントしていただいていたいいですか。

中小路さん：PTAの中小路です。公園の使い方、うちの娘もよく三角公園のに遊びに行くんですけど、やはり昔から公園のゴール側のところにブランコがあるので、そこでブランコをしていると、どうしてもサッカーボールですとか野球のボールが飛んできて危ないようなことがありました。子供たちも、分かってはいるんだと思うんですけど、危ないところにボールを取りにきたりとかするので、やはりその辺は、難しいなというのを、昔から感じていました。

学校で遊べるようになると、それで公園の中も少し安全面というのが保たれるのかなと感じます。

市長：ありがとうございます。舟生さんは、三角公園に行かれたことがあるんですね。小さいお子さんいらっしゃるんですね。

舟生さん：4人、私は子供がいて、一番上が13歳で、今一番下が2歳なんですけれども、やはりこちらの三角公園でみんなで遊ぶと、大きい子はサッカーとかで大きく蹴りたくなっちゃうんですね。小さい子は遊具で遊ぶとかですけれども、滑り台のところにボールが来て危ないという経験はしたことがあります。でも、そのときにちゃんと高学年のお兄ちゃんたちは、すみませんでしたとしっかり謝ってくれて、危ないということは認識をしていると思うんですけど、やっぱり、遊んでいる間に、ついつい行動が大きくなっちゃうのかなというところはあります。

三角公園は、一番、古川小学校がすごい近いので、本当に大きくボールとか蹴りたかったり、野球とかやりたい子とかは小学校のほうに移動できる環境があればいいなと思います。

市長：ありがとうございます。三角公園ってすごくいい公園ですよ。見通しがいいし、遊具も整備されているし、明るいしすてきな公園だと思って思うんですけど。やっぱりボールが出てしまったりとか、やっぱり住宅の中にあるので、非常に音に対しても課題があると。だから、ボール遊びに果たして適しているかという、ちょっとどうか。これだけのスペースがあるんだからボール遊びができるんだろうというふうに思うんですけど、当然、やっぱり小さいお子さん方と憩いの場所としてはちょっと、あそこにフェンスをつくるわけにもいかないし、なかなか難しいところなんです。

だから、今、舟生さんが言ったように、しっかりボール遊びができるようなところというのは、な

るべく学校のほうに移すことができれば、ここはパスとか、そういうあまり激しくないボール遊びというところに子供の中でルールづくりというものが認識されると、これは大分違うと思わないですか。というのは、大人とはまた違った子供のルールづくりというか、考え方があるから。皆さん、どう思います。少し学校のほうに移せたら、ここはあまり激しいボール遊びはやめるよねというルールづくりができると思いますか。

栗山さん、もう一回このところで。さっきコメントいただいた続きで。

栗山さん：もし、校庭でボール遊びができるとしたら、小さい子も広い空間、もっとゆったりした空間で遊べると思うので、もし校庭でボール遊びができるとしたら、そのほうが良いと思います。

勢一さん：校庭でボール遊びができるとしたら、三角公園のような狭い公園じゃなくて、校庭に行って、公園はちっちゃい子とかの遊び場にしてあげたいなと思います。

市長：早川さん、いかがですか。

早川さん：私も校庭でボール遊びができたらいいなと思うんですけど、ボール遊びが駄目な公園ってあるじゃないですか。それって走ったりするだけということじゃないですか。でも、ボール遊び専用の公園ってないから、何で走るのだけはあって、ボール遊び専用はないんだろうなって個人的に思うので、そこをはっきり分けて、逆にボール遊び専用、そういうことがたくさんできる公園というのを、どこかに造れたらいいかなと思います。

市長：豊田さん、いかがですか。

豊田さん：三角公園とかって、小さい子とかが多いから、小学生とかがボール遊びをしていると、やっぱりボールを取りに行こうとするときにぶつかることがあるから、それを考えると、校庭のほうが広いし、ボール遊びには適しているかなとは思っています。

市長：今、三角公園の話が出て、少しテーマ違いましたけれども、恐竜公園のところは結構ボール遊びをしていますよね。さっき、資料を見て、昨年までは曜日ごとにできる球技が、自主ルールみたいなものでフェンスのところには貼り出されているのを見て、こういうことになっているんだという話だったんですけど、今年からなくなったんですか。どういう理由だったかとか、どなたか存じですか。

渡辺さん：僕が聞いていた話では、以前は申込制で使っていたみたいですね。それを撤回して、誰でも自由に使えるという形で聞いているんですけども、基本的にそこは、フェンス自体がかなり高いので、ボールを蹴っても、野球の練習をしても、比較的、道路に出にくい場所なんですね。ですから、先ほど言ったサッカーの練習をする場合でも、そちらでやっていただいたほうが大きく動けるんじゃないですかという話をしたんですが、僕が話をしたときには、まだ事前の申込みが必要だったみたいで、やりたいときにできないという苦情があったようで、それで撤廃したみたいです。

市長：今年の状況になって、それはルールが変わった後に、どんな感じになっているか、逆に聞いておられますか。誰かご存じですか。子供さんたちは知っていますか。よくなったのか。

区長：私のほうで、どうして変わったのかという話を近所の方に聞いたんですけど、まずルールが浸透してきたということで、すみ分けがある程度何となく分かってきたという話は聞いています。発展的に、この後は自分たちで、それぞれで自主的なルールをつくったらいいんじゃないかなということで考えてもらうというような方向に進んできていると。そういう意味で、先ほどお話があったように、若干使いにくいよという話もあったんですが、そういうことを含めて議論していただければいいかなということで、あのルールが外されたと聞いています。

市長：むしろ前向きにルールを外して、少し自主ルールをつくってほしい。あまり固定的にせず、少し緩やかなルールにしていくということなんですね。

そういう意味では、こかげ公園のほうがボール遊びに非常に適しているけれども、ものすごく混んでいる公園ですよ、ボール遊びとしては。ですから、絶対に子供のボール遊びをしたいところのニーズと、それから公園面積というものが、絶対量がちょっと合っていないという部分が、これは間違いなくあるというふうに思いますけれども、その部分をもう一回少し仕切り直して、校庭のところで、先ほどの広報の部分とか、あるいはルールづくりをもう少し緩めることができれば、子供さんたちのニーズがマッチしてくるんじゃないかという、そういうことが言えるんじゃないかなというふうに思いますけれども、ここまでのところで、校長先生、どういうふうに思われているのか、感想を聞かせていただいてもいいですか。

校長：学校開放については、これまでも施設開放委員会がありますので、ボールで遊びたいという方たちが団体登録していただければ、利用できます。また、高校生のイベントについても、目的外利用とはなりますが、教育委員会に事前に相談することで、おそらく使うことはできます。学校としては校庭の利用というのは、どんどんしていただいて構わないです。

市長：前提としてですね。議論の一番最初に戻っちゃうんですけど、団体登録をしてくれということだと、これはまた話が全部戻っちゃうんですね。要は、個人で学校で遊べるという状況がつかれないかというのがベースの話なので、団体登録してくださいということだと、結局は子供たちが遊べないという話の議論に戻ってしまうので、そこまでは戻らないでいただきたいと思います。

柳澤さん、学校開放、施設開放の会長をやっていただいたんですけども、今、校長先生からもお話がありましたけど、実態とか、いろいろな悩みがあると思うんですけど、子供たちの意見を聞いて、どういうふうに思われますでしょうか。

柳澤さん：平日については、夏とか夏休みとか、長期の期間であれば、結構利用はできるのかなと思っているのと、公園での事故とかけがというのがあるわけなので、そこで問題がないわけではないんですけど、それをみんなでどこかに連絡するとか、本当に救急車を呼ばなければならないことは学校に言えばいいのかなというふうに感じております。

先ほど高校生の話がありましたけど、季節ごとに、私どもも特に土日、休みの期間というところで管理させてもらっていますので、そういうところで、いろいろな季節ごとのイベントがあれば、ぜひそれはお話いただいて協力してやっていければいいのかなと思っています。

あと、ただ一点、平日の校庭の利用はわくわくさんとの兼ね合いというものが生じてきますので、その中で、誰がそのルールをつくって、仕切りをつくってとか、また逆に、一般の普通の子供たちが使ったときに、わくわくの子供たちにけがさせちゃったみたいなのがあるとは思っているので、その辺は大人たちがうまく対応できるように、またPTAさんなんかにはご負担になってしまうかもしれない

けれども、もしそういうボランティアの形でご協力いただきながらやっていくと、うまく利用はできるかなというふうに考えます。

市長：ありがとうございます。非常に前向きな意見いただきました。わくわくプラザとの兼ね合いというものもあるのでという、そのとおりだと思います。

今、PTAの話にも触れられておりますけど、改めて会長と、それから館さんから少しコメントをいただければと思います。よろしいですか。

館さん：まず、わくわくプラザの規定のところに関しては、市内、幸区内でうまくすみ分けて校庭開放をしている学校も幾つかあると、私自身は話を伺ったこともあるので、そこは仕組みの問題として、うまくルールづくりをすれば、共存はできるんじゃないかなと、個人的には思っています。

今日、子供たちの意見を聞かせてもらって、ものすごく感じたところなんですけれども、やはり校庭を使ってみたいという子供がいる一方で、毎日開放されていても、それほど使わないんじゃないかなと、本気で思っているというのは、本当に個人差があるんだというふうに思っていて、我々大人の目線からすると、保護者として、やはり子供たちには外で遊んでほしいというふうに思ってしまうんですけれども、どうしてもそこまでお仕着せというか、無理やり使っていくという話ではなく、冒頭、高校生からの提案の中でもあったように、いろんな企画事だとかイベントというところで、毎日は無理だけど、ちょっとしたイベントがあるんだしたら、ちょっと使ってみようかなと思えるようなところも、裾野を広げるようなイメージで校庭開放のところの利用指針みたいなものを、それこそ子供たちをはさんで、高校生にも入ってもらうような形で企画してもらって利用するというような形であれば、比較的、校庭利用に関しては利用が進んでいくんじゃないのかなと。それによって、公園との共存も可能になってくるんじゃないかなと改めて思いました。

そこで、私はPTAですので、PTAとしてどう関わるかということもあるんですけれども、やはり保護者の立場としてお手伝いみたいなことはできると思いますし、PTAが関われば、基本的には何かあったときには保険みたいなことも、制度上、できることが出てくるのかなと思うので、仕組みの部分は、いろいろな検討をしていくとよいかと思います。

市長：ありがとうございます。

中村さん：今、いろいろとお話を伺っていく中で、一番感じたところで言いますと、やはり子供たちのために何ができるかという、このできないことをできるようにするというところをやっぱりしていかないというか、整理しないといけないのかなというのを一番感じました。

今のPTAの全体的なところは館さんからお話いただきましたが、古川小としてのこの議題でお話をさせていただいている中では、先ほど市長もおっしゃっていたように、川崎市全体の話に付随してくるところだと思いますので、今のこの議論を基に「古川モデル」ではないですけれども、そういったところのお話ができれば、例えばボール遊びをする環境をつくる中で、例えば今問題になっている運動能力の低下だとかそういったところに寄与できたりだとか、ルールをどうやって造っていくかなというところに論点があるのかなというところですね。

やっぱり、子供たちは当然成長していきますので、今の5、6年生が逆に幸高校の高校生に立場が変わって携わってくることになるかもしれませんし、やっぱり時代の流れに乗りながら、カスタマイズしながらやっていければいいのかなというふうに感じました。

PTAとしては、ルールというか、いろいろモデルケースができれば、いろんなところでご協力は

できるのかなと感じています。

市長：ありがとうございます。

大分時間も過ぎたんですけれども、今日来ていただいている大人の方でご発言いただいている倉林さん、それこそ幸区でいろいろな取組をしていただいて、盛り上げていただいているものですから、この間の議論を聞いていただいて、どんなことをお感じになったか、あるいは自分でもこんなことができるんじゃないかなということをお聞かせいただければと思います。

倉林さん：私も3歳と7歳の子供がいますので、ちょっと保護者目線と地域団体目線ということで、今日は参加させていただいたんですけれども、保護者目線で言うと、やはり親なので、子供が心配というのがあります。なので、公園の中でボール遊びをして、さっき出た恐竜公園で、この前ボールが出てしまって、車にボールが轆かかれていたという現場を私は確認して、やっぱり怖いというのはあったんですけれども、やっぱり安心・安全という場所を提供できるきっかけづくりだったり、そういったことは大人でできるんじゃないかなというのはありました。

さっき校庭で、自転車がオーケーであれば校庭に行くというのは、皆さん手を挙げたと思うんですが、そういったことで、自転車をどこに置くかとか、安心・安全のことも考えないといけないんですが、そういったことで、校庭でボール遊びができるのであれば、公園が少しは安全になるという面も考えられるんじゃないかなというところで、大人ができることを考えたいというのがあります。

あとは、地域団体の代表としまして、イベントを開催しています。商店街さんとコラボして、去年はコロナでできなかつたんですけれども、そういったところでも、高校生のボランティアの話もありましたけれども、これだけ皆さんがいろいろやりたいという思いがあるというのが分かったので、高校生のボランティアを募っていただいて、高校生と小学生と一緒に企画をして、校庭だったり公園を、こういう使い方にしようとか、例えばドッジボール大会をしてみるとか、そういったイベントの企画運営ができるんじゃないか、可能性が結構広がるなということで、今日はすごい勉強になりました。

市長：公園の看板の記載の仕方というのが、先ほど資料がありましたが、ボール遊びをするときには、周りの人に気をつけながら遊びましょうって、多分どの公園も、何か修正されていて書き直されている感じなんですけど、それまでってどういうふうに書いてあったんでしょうかね。大体分かりますか。

幸区：幸区役所道路公園センターの管理課長をします古谷です。看板の貼られる前は、サッカーや野球などボール遊びはやめましょうという形で、限定的に書かれていた経緯です。

市長：なるほど。実は、結構各区のどこもそうだと思うんですけれども、以前はサッカー、野球など危険なボール遊びはやめましょうという形で、かなり厳しいですよ。サッカーと野球は駄目と厳しいんですけど、やや緩やかな表示になったということです。

恐らく、私たちが生活している中で、近隣のお住まいの方からすると、すごくボールがばんばん飛んできて危ないということだったり、ある意味、かなり盛り上がると声がうるさいとか、あるいはボールが出て、車で危ないとか、その人たちにとってみるといろんな心配があつて。安全・安心な公園をつくるためにとやっていると、あれも駄目、これも駄目ということになってしまった。もしかしたら学校の施設もそうかもしれないし。いろんな人たちが、これは駄目だよ、あれは駄目だよ、危ないもんねというふうになると、危なさを全部取り払うと全て駄目になっていくということが、これまでの傾向だと思います。

そうすることによって、誰が一番苦しくなったかという、実は子供たちだけが苦しくなったわけではなくて、私たちの生活そのもの、みんなにとってあまりよろしくなくなる。みんなが駄目駄目言っちゃうと、公園も駄目、あそこも駄目、ここも駄目だというふうになると、一体公園って誰のためにあるんだろうと。学校の校庭って誰のものなんだと、ということの、根本的なところに議論がもう一度戻ってきちゃったというところが、今そういう状態であるというのが、川崎市、ここの古川小学校もそうだけど、全国の都市部の地域が、みんな同じ問題を抱えています。

先ほど、中村会長から古川モデルというような形というのができるんじゃないかというようなコメントをいただきました。すごくこれってありがたいコメントだったというふうに思います。それは今までこの間、大人たちが、これだけ真剣に、どうやって子供たちのためにボール遊びをできる環境ができるかなということ、それぞれの立場から考えていただいたことを、子供さんたちはぜひ、うれしいなと思っていただきたいと思います。

これから、実はまだまだ今日聞いた中で、こういうことがあったんだ、あるいは高校生を交えるとかこういう意見が出てくるのかということに新たな発見があって、これはやれるんじゃないかな、あるいはまだここには課題があるよねということも見えてきたと思います。なので、今日もいい一歩を進めたと思います。先ほどの休憩中話した話ではありませんけれども、大人の人たちがイベントこういうふうにやってみたらどうだろうか。少し、毎日じゃなくても、ちょっとこういう計画で、あるいは高校生が入ってくれることによって、新たな出会いがあって、全力でおじさんたちがやらなくてもいいということで、もっと若い人たちに入ってもらえれば、子供たちも楽しいし、地域の人たちも楽しいしというようなことをつくれるんじゃないかという、そういう新たな発見がありました。

ぜひ、ここを1つ古川モデルとして、前に進んだところ、館さんからお話ありましたけど、わくわくプラザと施設開放のところ、共存しているところもあるという話ですから、そういった事例を、古川のこの場所で少し進めていく。駄目だったら、また違った考えをというふうに、そういう前向きな調整をみんなでやっていくと、古川小学校でのモデルが、恐らく全市的に、あそこでもやっているんだから、私たちの場所だったらこういうことができるんじゃないかというところが、少しずつできてくるんじゃないかなというふうに、非常に希望を持ってた会であったというふうに思っています。

参加いただいた12人の小学生の皆さん、それから多分、今日は代表で来ていただいていますけれども、1年半前から考えれば、約2,000人の小学生にアンケートにご協力いただいているということで、そういった意味では、この辺りの子供たちの多くの声を皆さんに代表していただいたと思っています。これまでの中で、そして今日のご意見も一人ひとり、随時当てたつもりだけでも、少しのコメントしかできなかった方がいたこと、ちょっと問題があったと思いますけれども、ご参加いただいたことに感謝したいと思います。本当にありがとうございます。

それから、大人たちの皆さん、高校生の皆さん、本当にありがとうございます。これからもこの問題は今日で解決は全くしていませんので、これからももう少し前に進んでいこうということで、新しい知恵を加えながら、アイデアを加えながら、少しでも子供たちへの取組に応援できればというふうに思っています。

恐らくこの、子供たちをこれだけ長時間にわたって、何とか実現させてあげようという取組というのが議論されたことって、いまだ多分ないと思います。こんなすばらしい企画はないなというふうに思っていますし、ぜひ、多くの周りの人たちも巻き込みながら、理解を得ながら進めていけたらというふうに思っています。

全ての今日までも、あるいはこれからも含めてですけれども、ご協力いただいた方々に心から感謝申し上げて、そしてみんなで今日は拍手でたたえ合いながら、みんなの意見をたたえながら拍手で終わりたいと思います。今日は本当にありがとうございます。